

次期長野県教育振興基本計画の成果指標の在り方

1 概要

次期計画では、目指す姿（案）である「個人と社会の Well-being」の達成度合いをより実態的に把握し、毎年の施策形成、見直しに効果的に反映させるため、Well-being を測定することができる指標も設定していきたい。

また、現行計画の 4 5 項目の成果指標についても、次期計画の策定状況を踏まえて精査していく。

（参考）

Well-being を測定する指標は、教育がもたらす幸福感、豊かさを表すものとして、以下の 2 つの視点を内閣府が示している。

- ・主観的指標（例：生活満足度、自己肯定感など被調査者の主観に基づく指標）
- ・客観的（アウトカム）指標（例：文化芸術活動への参加率、子どもの貧困率など定量的な指標）

2 指標例（国の検討状況や他県の導入例など）

○第 3 次長野県教育振興基本計画

主観指標	客観指標
「学校へ行くのが楽しい」と答える児童生徒の割合 「子どもは喜んで学校へ行っている」と答える保護者の割合 「自分にはよいところがある」と答える児童生徒の割合 「将来の夢や目標をもっている」と答える児童生徒の割合	文化芸術活動に参加した人の割合 1 か月 1 人当たりの平均時間外勤務時間が 45 時間以下の公立小中学校割合 朝食を欠食する児童生徒の割合 特別支援学校高等部卒業生の就労率
等	等

○第 3 期教育振興基本計画（文部科学省）

主観指標	客観指標
自分には良いところがあると思う児童生徒の割合 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合 進路について将来の仕事に関することを意識する高校生の割合	いじめの認知件数に占めるいじめの解消しているものの割合 地域の行事に参加している児童生徒の割合 文化芸術の鑑賞活動をする者の割合 生活保護世帯に属する子供等の高等学校等・大学等進学率
	等

○内田由紀子 教授（京都大学） 中央教育審議会教育振興基本計画部会（第4回）掲載資料から

	生徒の Well-being 構成要素（例）	学校（教員）の Well-being 構成要素（例）
主観的幸福感 - 現在・将来・周囲 のウェルビーイング -	(今の幸せ) 学校生活が楽しい、日常生活に不安や心配事がない (自分・周囲の幸せ) 大切な人を幸せにしたり、楽しませていると思う (将来の幸せ) 思う自分は将来幸せに暮らしていると思う	(今の幸せ) 学校の仕事が楽しい、日常生活に不安や心配事がない (自分・周囲の幸せ) 大切な人を幸せにしたり、楽しませていると思う (将来の幸せ) 自分は将来幸せに暮らしていると思う
自己実現と 自己受容	自分には良いところがあると思う 勉強ができたとき、喜びを感じる 苦手なことにチャレンジできる環境だと思う 勉強することに意味が見いだせない	自分にはいろいろ良いところがあると思う 教育に意欲を感じる 子どもの成長を実感する 指導方法や内容を学ぶ機会が提供されている
多様なつながり と協働・向 社会性	先生のことが好きだ、家で学校の話をしている 友人関係に満足している、クラスの居心地が良い 学校や地域、社会などで、人の役に立つことをしてみたい	相談できる人がいる 職場の居心地がよい 生徒との信頼関係がある、保護者や地域との信頼関係がある
安心・安全な 環境	通学路は安全であり、安心して使える 校舎や設備が快適・清潔であり、満足している	通学路は安全であり、生徒が安心して学校に通える 校舎や設備が快適・清潔であり、生徒が満足できる環境である

○高校魅力化評価システム指標（一部抜粋）

	生徒の Well-being に関する指標	学びの土壌（場・関係性・機会）に関する指標
主体性	今の生活の満足度、普段のあなたの幸福度 現在の日常生活に不安や心配事がない	失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる
協働性	この学校に入ってよかったと思う 学校の一員だと感じている	自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある 立場や役割を超えて協働する機会がある
探究性	自分の将来について明るい希望を持っている 自分の将来についての見通しを持っている	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある 生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある
社会性	将来、自分の住んでいる地域の役に立ちたいという気持ちがある 日本の将来は明るいと思う	地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐ橋渡ししてくれる大人がいる 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある

※（システム概要）高校魅力化がそれに関わる生徒の成長、意識・行動の変容に与える効果を可視化することを目的とした評価体系。この評価システムは、2019年度の文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」における「PDCA サイクル構築のための調査研究」として、当該事業の指定校において、取り組みを評価するツールとして導入。島根県は、全県立高校に導入し、PDCA サイクル構築等に活用（開発）三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（費用）一校当たり 11 万円

○新・群馬県総合計画（幸福の視点：一人ひとりの幸福、社会全体の幸福、将来世代の幸福）

主観的指標	客観的指標
<p>子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育がされていると感じますか</p> <p>教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組がされていると感じますか</p>	<p>【一人ひとりの幸福】</p> <p>課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合（小中学生対象）</p> <p>児童生徒のチャレンジ率（小中学生対象）</p> <p>児童生徒の自己肯定感（小中学生対象）</p> <p>「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童生徒の割合（小中学生対象）</p> <p>【社会全体の幸福】</p> <p>ICTを活用した授業をほぼ毎日行っている教員の割合（小中学校対象）</p> <p>教員1人当たりの児童生徒数</p> <p>特別支援学校高等部生徒の一般就労率</p>

○いわて県民計画（県民の「幸福」を的確に把握する方法を研究するために設置した「岩手の幸福に関する指標研究会」にて指標体系を提言）

主観的指標	客観的指標
<p>子どものためになる教育が行われていると感じますか</p>	<p>意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合</p> <p>授業で、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童生徒の割合</p> <p>人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合</p> <p>自己肯定感を持つ児童生徒の割合</p> <p>体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合</p> <p>特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合</p> <p>高卒者の県内就職率、県内大学等卒業者の県内就職率</p> <p>将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合</p>